

2020年3月期第1四半期決算電話会議 議事録 主な Q&A

日時 2019年8月1日 木曜日 14:00～15:00

○質疑応答○

Q1. アフリカ豚コレラ（ASF）のグローバルでの影響と当社業績への影響は？

- ・春先は中国の買いに反応してグローバルで相場が上昇したが、現状は落ち着いている。中国国内の豚肉不足は事実であり、秋以降買いが入るのではないかと予測が出ているが、どのような影響が出るかは不透明。
- ・当社業績に大きな影響が出るのはグローバル相場の上昇が国内相場に波及した場合であるが、それは早くとも今年後半以降だと考えている。

Q2. 1Qで厳しかった国産食肉の販売状況と今後の見通しは？

- ・最も差異が大きかったのは豚肉であり、疾病による供給不安などから枝肉価格が上昇した。また末端消費が弱く、店頭販売が輸入品や他畜種にシフトしたことも影響した。
- ・鶏肉は豚肉ほど需要が弱いわけではないが供給が多く、相場が軟調に推移している。今後は季節要因で上昇を見込んでいる。
- ・牛肉は10連休時に需要が伸びたが、高値が継続しており、売りにくい状況になっている。

Q3. 加工事業は、コンシューマは好調ながら業務用が厳しい。2Q以降の戦略に変更はあるか？

- ・加工事業は商品構成の改善により増益となった。2Qにおいて、コンシューマはこれまで通り主力ブランドへの新商品投入、効果的なマーケティングによる消費喚起を行っていく。業務用は季節やメニューごとに採用機会があるので、個々に取り組んで回復を図る。

Q4. 海外事業のトルコ好調の理由とウルグアイ含めた豪州事業の見通しについて

- ・トルコの好調は、4月以降国内の鶏肉販売価格が上昇したことで飼料価格が安定していたことが要因である。2Q以降販売価格は落ち着いてくるが、対前年では大きく伸長すると見ている。
- ・ウルグアイの生体仕入価格は上昇がようやく止まったところで、落ち着くまでには時間を要する。豪州は牛の絶対頭数が減少しており、これから2～3年は厳しい仕入れ環境が続くと思われる。一方で販売は中国向けを中心に非常に好調であり、今後さらに需要が高まる可能性もある。

以上